

整備優先順位の高い地区へのアンケート調査結果について (高山地区・PTA 役員)

整備優先順位の高い6地区（鹿ノ台、高山、真弓、北田原、桜ヶ丘、菜畑）における地域特性に応じた対策案の検討に向けて、特に優先度が高いと判断した2地区のうち高山地区を対象に、日常生活での移動の実情を把握するための調査を実施した。

高山地区では、令和3年8月に各自治会を対象にヒアリング調査を実施した結果、現状では自動車移動が可能であるため、公共交通サービスに対する地元住民からの強い要望が得られなかった。ただし、前回調査では各自治会の代表者（自治会長、民生委員、老人クラブ会長）のみを対象としており、日常生活における移動実態を把握するために、子育て世代の地元住民であるPTA役員を対象にアンケート調査を実施した。

本資料では、アンケート調査結果の取りまとめ及び今後の方針について整理をおこなった。

1. 調査概要

公共交通利用や家族等による送迎の実態、公共交通サービスに対する意見等を把握するために、子育て世代の地元住民である高山地区内の生駒北小中学校のPTA役員を対象に、アンケート調査を実施した。

PTA役員に対するアンケート調査の概要を下表に整理した。

表1 調査概要

調査目的	高山地区内の公共交通の利用実態、家族等による送迎の実態、今後の公共交通サービスに対する意見を確認する。
調査対象者	生駒北小中学校のPTA役員20名
調査方法	PTA協議会を通じて、PTA役員へアンケート調査票を配布
調査時期	令和4年2月5日～2月20日

2. 調査項目

アンケート調査の項目及び設問内容を、下表に整理した。

公共交通利用の実態を把握するために、路線バスの利用の有無や利用しない理由、現状の運行頻度やバス停までの距離に対する意見を尋ねる質問を設けた。また、家族等による送迎の実態を把握するために、具体的な送迎内容や送迎負担について尋ねた。

今後の公共交通サービスについては、助け合い輸送とデマンド型乗合タクシーに関して必要性や導入可能性を尋ねた。

表 2 調査項目および設問内容

調査項目	設問		
日常生活での移動実態（公共交通利用及び家族等による送迎）	子どもを連れての買い物・通院時の移動	バスの利用の有無	
		(バスを利用する場合) ・主な利用目的 ・利用頻度 ・主な行き先	
		(バスを利用しない場合) ・利用しない理由 ・主な行き先 ・移動手段	
	子どもの通学や習い事等での移動	バスの利用の有無	
		(バスを利用する場合) ・主な利用目的 ・利用頻度 ・主な行き先	
		(バスを利用しない場合) ・利用しない理由 ・主な行き先 ・移動手段	
	現状の運行頻度に対して不便と感じる点		
	家からバス停まで遠いためバスを利用できない地区		
	家族の誰を、何のために、どこまで送迎するのか		
	送迎を負担に感じるものの有無		
今後の公共交通サービスの導入	助け合い輸送の必要性・導入可能性について		
	デマンド型乗合タクシーの必要性・導入可能性について		

3. 調査結果とりまとめ

PTA 役員 20 名を対象にアンケート調査票を配布し、17 名から回答があった。回答者が属する自治会区域間で回答結果に違いがみられなかったことから、自治会ごとでなく高山地区全体の結果として整理した。

回答結果より、多くの声が集まった意見や主な意見を、下表に整理した。

表 3 調査結果の取りまとめ

公共交通の利用実態	日常生活移動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを連れて買い物・通院する時には、路線バスをほとんど利用せず、自動車で移動している。 ・子どもの通学や習い事での移動時は、一部バス利用があるが、ほとんどの人は自動車で送迎している。
	バス利用	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスを利用しない理由は、便数が少ない、帰りの便がない、バス停まで遠いという意見が多い。特に朝の増便を求める声が多い。
	家族等の送迎	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを習い事のために駅（北生駒駅、白庭台駅、富雄駅など）へ送迎することが多い。 ・高齢の親の通院のために、病院（近大奈良病院、白庭病院など）へ送迎する人もいる。 ・送迎回数が多く、時間を取られるため、送迎を負担に感じるという意見が多い。
今後の公共交通サービス	助け合い輸送	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代にとって必要ではないが、地域や高齢者にとっては必要であるという意見が多く集まった。 ・終了時間が未確定な用事（診察）での帰宅時の利用に対する不安や、ネットだけでなく電話での予約方法が必要という意見もあった。
	デマンド型乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代にとって必要ではないが、地域や高齢者にとっては現状または将来的に必要な意見が多く集まった。 ・予約が負担であるという意見や、人口が少ないため需要が少なく高額になるのではないかと意見もあった。

4. 今後の対応方針

生駒市地域公共交通計画において、高山地区は75歳以上の人口が多く、自宅からバス停や駅まで離れており、令和2年度住民アンケート結果から公共交通サービスを求める意見が多いため、整備優先順位が高い地区としていた。

しかし、今回の子育て世代を対象としたアンケート調査結果から、日常生活の移動では路線バスはほぼ利用されておらず、マイカー移動や家族送迎がおこなわれており、子育て世代自身にとって公共交通サービスが必要であるという意見は得られなかった。

そのため、令和3年8月に実施した自治会長等へのヒアリング調査も踏まえると、活動機会の保障という点から、高山地区において子育て世代や高齢者自身への早急な対策は必要ではないことが確認された。しかし、今回の調査結果から、地域や高齢者のことを考えると公共交通サービスが必要ではあるという意見が多いため、活動機会の保障状況を定期的に確認しながら、整備時期の検討を進める必要がある。